

令和4年度第2回狛江市総合教育会会議録

日 時 令和5年2月8日(水) 16:00~16:50

場 所 4階特別会議室

出席者 市長 松原 俊雄(市長)  
委員 柏原 聖子(教育長)  
佐藤 正志、熊谷 勝仁、小川 敦子、森 昌子(教育委員)

事務局 高橋 良典(企画財政部長)、上田 智弘(教育部長)  
松岡 弘悟(教育部理事兼指導室長)、植木 崇晴(学校教育課長)  
浅見 文恵(教育支援課長)、鎌谷 京子(社会教育課長)  
浅井 信治(公民館長)、細川 浩光(図書館長)

議 事 ○議事説明  
・議事の概要  
・出席者紹介  
○報告事項  
(1) 令和5年度当初予算案(教育関連)について  
資 料  
(1) 令和4年度第2回狛江市総合教育会議委員名簿  
(2) 令和5年度会計別予算規模  
(3) 令和5年度教育関連予算概要

市 長 これより、令和4年度第2回狛江市総合教育会議を開会します。昨年は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、必要な対策を講じつつ、「狛江市民まつり」や「狛江古代カップ多摩川いかだレース」といった、市内の主要イベントを本格的に再開させることができました。両イベントには、小中学生の子どもたちの参加や、PTA、おやじの会等の保護者の皆様にも御協力いただき、教育委員会や学校とも連携して無事に実施することができました。皆様の御理解と御協力、御支援に対し、この場を借りて感謝申し上げます。

少しずつ市内にも賑わいが戻り、市民の皆様の笑顔も多く拝見できるようになったと感じております。本日は、令和5年度の教育予算の概要を報告させていただきますが、本年も多くの皆様に笑顔にできるよう、教育委員会とも連携しながら取り組んでまいります。引き続き、御理解・御協力の程、よろしくをお願いいたします。

それでは、はじめに、本日の議事及び出席者について、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長 会議の案件は報告事項1件になります。この度、令和5年度の当初予算案について、市長部局において編成されたことから、予算のうち教育関連部分について報告させていただきます。

次に、本日の出席者について、会長として、松原市長。委員として、柏原教育長、教育委員である佐藤委員、熊谷委員、小川委員、森委員になります。

事務局として、市長部局より、高橋企画財政部長、教育委員会より、上田教育部長、松岡教育部理事兼指導室長、浅見教育支援課長、鎌谷社会教育課長、浅井公民館長、細川図書館長、また、私、学校教育課長の植木が出席しています。

市長 事務局の説明が終わりましたので、議事日程に従って、議事を進めます。

それでは、報告事項（1）「令和5年度当初予算案（教育関連）について」、事務局から説明をお願いします。

企画財政部長 一般会計については、予算額約316億2,000万円で前年度比約3億円、1.0%の増となっています。

増額した主な要因としては、プラスチック類ごみの分別収集を開始することや、私立保育園の改築費及び認知症高齢者グループホーム整備費への補助、（仮称）駒井公園整備にかかる用地取得等のほか、国民健康保険特別会計繰出、介護保険特別会計繰出、後期高齢者医療特別会計繰出等によるものです。

特別会計は、全体では予算額約179億5,700万円で前年度比約3億3,500万円、1.9%の増となっています。

令和5年度予算編成については、高齢化の進展により、介護保険特別会計や後期高齢者医療特別会計への繰出金の増額等、社会保障関係費の増額や、燃料費や原材料費の高騰による物価高等、経常経費が増加しており、市の財政状況は厳しい状況ではありますが、限られた財源の中でも松原市長の2期目の公約のうち、特に「安心して安全なまちづ

くり」「子育てしやすいまちづくり」「快適に暮らせる魅力あるまちづくり」を推進する予算としました。

10款「教育費」の予算額は約35億4,200万円で、前年度比約6億1,500万円の減額ではありますが、令和4年度にはエコルマホールの改修工事費約6億2,700万円があったためです。

国庫補助金を活用するため、令和4年度の補正予算に計上いたしますが、実際の工事は令和5年度に実施するものとして、狛江第三小学校大規模改修三期工事、第六小学校トイレ改修工事、第一中学校改修一期工事、第二中学校大規模改修三期工事があります。また令和5年度予算では、狛江第六小学校、第一中学校の受変電設備改修工事と、計画的に小中学校の老朽化対応も進めております。また市民センター改修工事の実施設計、新図書館整備の実施設計も進めてまいります。

その他の教育関連予算については、資料3「令和5年度教育関連予算概要」を御確認ください。

市長 それでは、本件について、御意見や御質問等ありますでしょうか。

熊谷委員 2点あります。1点目は、来年度から医療的ケアの必要な児童が小学校に就学する予定です。私も以前現場で医療的ケア児に対応したことがあり、対応の大変さを実感しました。狛江市では、学校の負担軽減のための予算が計上されていることは大変ありがたいです。今後、特別な配慮を要する児童・生徒への支援と関連の体制整備を今まで以上に行っていただきたい。

市長 昨年度、医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が施行され、インクルーシブ教育システム推進のため、医療的ケア児に対して、合理的配慮が可能な限り、教育に係る適切な支援が求められています。医療的ケア児に限らず、市の基本計画に示したとおり、障がいのある子ども、ない子どもも共に地域で育ち、支え合いながらいつまでも健やかに暮らせるまちづくりを進めていきたいと考えています。特別な配慮を要する児童・生徒への支援については、合理的配慮を勘案した上で、適切な支援を検討していきたいと思っております。

熊谷委員 2点目は要望です。日本人の英語力、特に会話能力は諸外国に比べて、全般的に低い傾向があります。その危機感から、教育現場においても、ALTが配置され、英語教育が小

学校中学年から行われることで、英語力の向上を図っています。東京都では都立高校の受験に昨年英語スピーキングテストを活用することになりました。狛江市では、ALTの配置に関する補助があり、また来年度から中学生で実施している体験型英語学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAY での体験を小学生でも実施する予定と聞いております。今後もこのような取組みを継続的に予算化し、英語力の育成を支援していただきたい。

市長 子どもにとって体験学習の機会は非常に貴重であり、教育的な効果があると考えています。私としても、英語の学習に限らずオリンピック派遣事業等、教育委員会からの体験的取組みの提案については、積極的に検討してきました。今後も体験的な活動等、子どもの可能性を伸ばす教育を充実させたいと考えています。

熊谷委員 20年後の日本の状況を見据えて、外国の方々と共生していく必要等もある中で、言葉だけでなく、精神面での成長等にもぜひ力を注いでいただきたい。

森委員 コロナ禍や物価高騰等を受けて、学校給食を無償化する動きがいくつかの自治体で見られます。無償化に当たり、財源確保が大きな課題ではありますが、予算措置も含めて、狛江市の今後の対応等について、市長の考えを伺います。

市長 物価高やコロナ禍、子育て支援といった理由から、都内では、葛飾区や品川区、北区、そして世田谷区において、令和5年度から給食費を無償化する又は無償化を検討する話を聞いております。

仮に狛江市で小中学校の給食を完全無償化すると、おおよそ2億5千万円程度の歳出が見込まれます。市の財政規模の1%弱の財政支出が必要になり、かなりの財政負担になります。所信表明にもありますように、「子育てしやすいまちづくり」を進める上でも、少子化対策も踏まえ、子育て世帯の負担軽減を検討しているところです。令和5年度については、給食食材費の支援や多子世帯の対策等を検討しております。今後、財政負担といった面も熟慮して、国や都、各区市の動向を注視しつつ、検討してまいります。

森委員 子育て中の保護者から、狛江市の給食は行事食や世界の料理のアイデアメニューがあったり、地元農家の美味しい野菜が使われたり等の話を伺っています。給食の時間は心だけではなく、体の栄養にもなる大切な時間だと思っております。給食費に関して

は、今後様々な動向を注視しつつ、狛江市でも対応していただければと思います。

市長 本日、狛江市農産物直売会の方と打ち合わせを行う予定です。給食に色々な食材を提供してくださっていることに対して、御礼を述べたいと思います。

小川委員 令和5年度に医療的ケア児の在籍校への安全委員会の設置を検討しているということですが、安全委員会の中には、第三者の方が入っているのでしょうか。

教育支援課長 安全委員会については、基本的に委員メンバーには第三者を入れる予定はありません。必要に応じて、当事者の保護者等の意見を伺うことができるよう考えております。

市長 安全委員会とは別に、支援体制として、医者、看護師、市の福祉部門や子育て部門、教育委員会等が入っている横断的な委員会があると思いますが、補足をお願いします。

教育支援課長 安全委員会は当事者が通う学校での安全を守るために、副校長、医療的ケアを行う看護師、場合によっては、主治医も入って話し合いをするものです。それとは別に、狛江市の医療的ケアの向上を目指す全庁的な委員会も設置しており、教育委員会、関連市長部局、そして医療的ケアに知見のある医師等の第三者も入っています。

小川委員 この間ずっと検討を続けていただいた新図書館整備について伺います。新図書館整備基本構想が策定されたことに対して、市長を始め検討委員会の皆さん、職員の皆さんの尽力に感謝します。今後詳細を詰めていくことになると思いますが、これまで図書館を利用してこなかった人を含めて、より多くの方に将来的に利用、活用していただきたいと願っています。改めて新図書館整備に向けた市長の考えを伺います。

市長 令和4年11月に、市民参加を経て新図書館整備基本構想を策定しました。教育委員会に検討状況を随時報告する中で、委員の皆様からも様々な御意見をいただいたと聞いています。改めて御礼申し上げます。

同構想の中では、現市民センターに児童書を中心とした図書コーナーと、現商工会跡地に一般書を中心とした新設図書館を整備し、その2つが一体となって新図書館を形成するものとしています。

子育て世代からの意見を踏まえて、市民センター図書コーナーでは、子どもたちやそ

の保護者の方等がのびのびと笑顔で読書できる環境として、また、新設図書館では、市民の学びを深める場所として、それぞれの特徴を明確にすることで今以上に多くの方に図書館を御利用いただけたらと考えています。

来年度は、実施設計に入る予定ですが、運営面も含めて一層の工夫ができるよう先進図書館等の視察を指示しています。施設の規模には制約はありますが、「Small is Cool!小さな発見 つながる世界 小さなまちの宝箱」という新図書館のコンセプトを体現し、長年の懸案であった新図書館の開館に向け、着実に準備を進めたいと思います。

小川委員 子育て世代の利用はとても期待したいですが、これから高齢化が進む中で市域が小さく、歩きやすい狛江市の利点を活用し、高齢者の方も散歩がてらに図書館で本や新聞を読むという活用の仕方も期待できると思います。

新図書館と同時に、市民センターの改修も進めていくということですが、今まで利用されていた方だけでなく、より多くの人に開かれたもの、様々な世代が集う施設になることを期待しています。

施設整備だけでなく、運用面も含めて、検討を進めてほしいと考えています。ぜひ、よろしくお願いいたします。

市長 「より多くの人に開かれたもの、様々な世代が集う施設にしたい。」、私も同様に考えています。

市民センター改修後は3つの機能が集まる新たな複合施設に生まれ変わります。公民館、児童書を中心とした図書コーナー、市民活動支援センターがそれぞれの役割を發揮しながら有機的に連携することで、生涯学習と市民活動の拠点となり、多くの人に愛される市民センターを目指したいと考えています。運営面も含めて検討し、着実に準備を進めたいと思います。

佐藤委員 昨年9月に「旧狛江第四小学校跡地利用に関する基本的な考え方」がまとめられたと聞いています。その中でも触れられているとおり、貴重な財産である文化財の展示・保管場所は、市としても長い間懸案事項であると思いますが、文化財の展示・保管場所について、その後の検討状況はいかがでしょうか。

市長 新図書館の議論より前から文化財の保管場所について長く議論されてきましたが、実

現できていないのが現状です。現在旧狛江第四小学校跡地に保管されている文化財等については、市が責任をもって後世に継承するためにも、市民の皆様と共有できる展示施設が必要だと考えています。単にそれらを保管・管理・展示するだけの施設にとどまらず、地域と歴史や文化の学習の拠点という機能も求められると考えています。一般質問等において、多くの議員からも、展示施設について、様々な御意見をいただいています。

なお、旧狛江第四小学校の校舎棟については、安全面からもいずれ解体する必要がありますが、解体前に文化財等の移転先を確保する必要があります。来年度に庁内検討委員会を設置し、文化財の収蔵方法の課題整理等をしていくことになっておりますので、その検討委員会での考えがまとまりましたら、具体的に検討を進めたいと考えています。相当な財政力が必要となりますが、狛江市の歴史、文化を後世に継承するため、様々な御意見をいただきながら、しっかり対応できるようにしていきたいと思っております。

佐藤委員 数年前の台風で、旧狛江第四小学校の校舎が水浸しになり、文化財への被害が出ました。狛江を愛する子どもたち、狛江を愛する市民を増やしていくことは市の重要な役割だと思いますので、検討を進めていただきたい。

次にいじめ問題について、伺います。いじめ問題がずっと続いており、国が新年度に自治体の首長部局がいじめに対応するモデル事業を行うと聞いています。

学校だけではなく、専門家を活用する等学校外からのアプローチも取り入れ、学校でのいじめ防止対策と首長部局の対策を合致することで、いじめの長期化や重大化を防ぐモデル事業だそうです。4月に発足することも家庭庁分の予算案として約2億円が組まれているそうです。

いじめ防止対策は、基本として教育委員会と学校が主に担ってきましたが、最近はSNSによるいじめ、学校外でのいじめ等、学校が実態を把握することが難しい状況も増えています。また、いじめに関して、教育委員会や学校も当事者であることから、第三者的視点に欠けることも指摘されており、そうしたことから保護者と揉める、関係性がこじれるケースも数多くあります。

こうした現状に対して、横断的取組みとして国がモデル事業を実施するのだと推し量っていますが、今後を見据えて、市長の考えをお聞かせください。

市長 いじめは学校だけで発生する問題ではなく、教育委員会だけに解決を任せてよいものではないと考えています。しかしながら、まずは教育委員会や学校が、未然防止に努め

るとともに、早期解決に向けて、一丸となって取り組んでいただくことが重要であり、必要不可欠なことだと思います。

市長部局としては、総合教育会議が設置された発端となった理由も踏まえて、もちろん重大な案件については、直接関与も辞さないつもりでいじめ問題の解決に積極的に関与していくつもりです。いじめに関しては、様々な場面において解決する手立てを考えていく必要があります。国のモデル事業の動向や他の自治体の動向を注視しつつ、市長部局としてもいじめ問題の解決に向けた取組みを改めて検討したいと思っています。

小川委員 私も旧狛江第四小学校の卒業生として、跡地の利用について気になっております。調布側の多摩川住宅の建替え計画が進んでおり、入居者を募集している状況です。今後、子育て世代の方も多く転居してくると、多くの子どもたちが賑わう狛江が復活すると期待していると同時に、和泉小学校だけでニーズが足りるのかを心配しています。ぜひ中長期的な視点を持って、文化財の展示施設の配置と跡地の利用を検討していただきたい。

市長 日本の人口が減少し、出生率も低下しています。東京都の人口は流出が多かったため一時的に減少しましたが、現在は流入が多くなり、増加しました。狛江市の人口も2月1日付で以前の83,000人を割り込んでおります。国は様々な対策を講じているものの、少子化に追いついていません。

狛江側の多摩川住宅の建替えがこれから始まります。狛江側だけで現状の約500戸から約1,200戸に増えます。人口減少の状況から多摩川住宅の建替えでそれだけの人口が増えるかは分かりませんが、住宅が建設され、人口が増える予定であるため、市として約1,200戸に住んでいただけるような全体的なまちづくりを考えていく必要があります。もう一方で、どういう構成の世帯が入居するのかを踏まえて考える必要があります。

現在、西河原公園から旧狛江第四小学校までのまちづくりの構想を進めております。それから、和泉多摩川駅周辺と狛江駅周辺を魅力あるまちづくりにし、活性化を図っていきます。狛江市民だけではなく、市民以外の方も狛江でお茶をしよう、多摩川でくつろごうと思えるような全体的なまちづくりを考える必要があります。

多摩川住宅の建替えで子育ての世帯が多く入居する場合、必要に応じて、和泉小学校の増築について周辺土地の手立て等も検討する必要があります。10年、20年後を見据えて、今からまち全体の構成を考えていかなければなりません。子どもたちに住んでいた

だき、子どもたちが大きくなった後また狛江市のまちづくりに参加していただくことも大切です。その一環として、旧狛江第四小学校の跡地をどのように魅力あるまちにするのかが大切です。一方で、教育委員会に体育協会から、市民の健康増進や、世界に羽ばたく子どもたちの育成のために、跡地をスポーツ施設としてほしいという要望書も出ております。このように、文化財の保管的場所は必ずしも旧狛江第四小学校の跡地とは限りません。様々な意見をいただきながら、議論して、狛江市を魅力的なまちにしていきたいと考えております。

小川委員 狛江駅と和泉多摩川駅周辺も含めて、未来の狛江市の全体的なまちづくりの展望が楽しみになってきました。期待しております。

市長 本日いただいた意見も踏まえつつ、市長部局と教育委員会が両輪となって、連携して進めてまいります。

予定した議事はこれで終了ですが、他に何かありますでしょうか。

<なし>

市長 なければ、これで令和4年度第2回狛江市総合教育会議を閉会します。